

日本語要約・臨床解説

口底へ迷入した歯根を、ナビゲーションと内視鏡で回収。

位置を示す電磁ナビゲーションと、狭い術野を見せる内視鏡を併用した単一症例。

口腔外科 / 症例報告

37歳男性1人。下顎第三大臼歯抜歯時に口底へ迷入した歯根片。

症例報告・概念実証。比較有効性や一般化には強い制約。

01 研究の要点

目的

下顎第三大臼歯抜歯中に口底へ迷入した歯根片について、電磁ナビゲーションと内視鏡を併用した回収を報告する。

方法

37歳男性が2021年5月の左下顎第三大臼歯抜歯で歯根片迷入を来した。他院の全身麻酔下回収が不成功で紹介され、直接回収が難しいと判断された。電磁ナビゲーションで位置を確認し、内視鏡の視野下で口腔内から回収した。

結果

歯根片は回収され、術後創傷は問題なく治癒し、舌神経損傷は認めなかった。抄録には比較群、侵襲度の定量評価、追跡期間は記載されていない。

結論

位置情報と内視鏡視野の併用が、視認・触知しにくい歯根片回収を支援した症例である。他の方法と比較した安全性や有効性はこの報告だけでは判断できない。

読み取れること

- 報告は患者1人であり、成功率を推定できない。
- 2021年の臨床経過と、2026年9月14日の論文電子公開日を区別する。

02 臨床で考える

口底へ迷入した歯根を、ナビゲーションと内視鏡で回収

1. 口底の歯根片を視認・触知しにくかった症例で、位置情報と内視鏡視野を組み合わせた専門施設の検討例として読める。
2. 適応や安全性の一般的な基準を示した比較試験ではない。個別症例での手術方針は、この報告だけから決められない。

単一症例で比較群がない。

本記事は原文抄録に基づく日本語要約・編集解説であり、個別患者への診断・治療指示ではない。

臨床で深く読む

原著の報告と編集上の解釈を区別した解説です。AI編集・歯科医師未監修。

見えない歯根片の位置と術野を、別の情報で補った1症例。

電磁ナビゲーションと内視鏡の併用で回収できた報告であり、通常の回収法より安全という比較結果ではない。既に回収が難航した症例の技術的検討として読む。

対象

37歳男性1人。左下顎第三大臼歯抜歯時に歯根片が口底へ迷入した。

介入・評価対象

術前画像に基づく電磁ナビゲーションと、内視鏡による口腔内アプローチの併用。

比較

対照群なし。他院での全身麻酔下の回収不成功は臨床経過であり、条件をそろえた比較ではない。

評価項目

歯根片回収、創傷治癒、舌神経損傷の有無を記述。主要・副次評価の指定はない。

追跡・評価時点

発端は2021年5月。術後の具体的な観察期間は抄録に記載されていない。

結果の大きさを、診療の視点で読む

回収と術後経過

原著の報告：歯根片を口腔内から回収し、創傷は問題なく治癒した。舌神経損傷は観察されなかった。

臨床での読み方：この患者での成功を示す。神経損傷がなかったことから、他の患者での発生確率を推定することはできない。

併用技術の役割

原著の報告：電磁ナビゲーションで位置を確認し、内視鏡で狭い術野の照明と直接視認を補った。

臨床での読み方：位置情報と視野の補完という説明は理解できるが、それぞれの寄与や手術時間短縮は定量化されていない。

目の前の患者に、どこまで重なるか

研究に近い条件：口底へ迷入した歯根片が直接見えず、触知も難しい場合の専門施設での検討例。

未確定の範囲：通常の抜歯、他の迷入部位、急性感染の有無が異なる症例への適用条件は、この抄録から決められない。

比較の単位

患者は1人である。先行する回収不成功と今回の成功では施設や手技なども異なり、ナビゲーションだけの効果には帰属できない。

低侵襲という記述

原著は低侵襲と表現するが、対照法との切開量・時間・疼痛の数値比較はない。術後の長期合併症も評価できない。

自院で検討するなら

- ・ 位置を特定する情報と直接視認する情報を、著者がどう組み合わせたかを原著で確認する。
- ・ 回収成功、侵襲度、神経障害を一つの成功指標にまとめず、記述の有無を分けて読む。

患者さんへの説明例

見つけにくい歯根片を、位置を示す装置と内視鏡を併用して回収できた1人の報告です。神経の損傷は認めませんでした。他の方法より安全か、どの患者さんにも使えるかは、この報告だけでは分かりません。

患者の希望と治療条件に合わせ、歯科医師が内容を検討するための研究説明例です。個別の治療結果を保証するものではありません。

同僚と考える問い

視認できない迷入歯根片の報告を読む際、位置確認と術野確保のどちらの情報が不足しているかを、どのように整理しますか？

コメントする：<https://nakanoyuyadental.com/articles/displaced-root-navigation-endoscopy-case#comments>

臨床解説の確認資料：原文抄録 (Abstract: methods, results and conclusions) <https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42733217/>

研究の限界・解釈上の注意

- ・ 単一症例で比較群がない。
- ・ 手術侵襲の少なさは著者の記述で、対照法との定量比較ではない。
- ・ 抄録で追跡期間を確認できず、長期合併症の頻度は不明。
- ・ 原文抄録と電子公開日を確認した要約。本文全体の日本語翻訳ではない。

03 原著・資料の範囲

Retrieval of a Displaced Mandibular Tooth Fragment From the Floor of the Mouth Using a Combined Navigation System and Endoscope: A Case Report.

Hirano T, Kawai T, Suzuki S, Takahashi N, Izumisawa M, Yamada H.

The American journal of case reports | 原著公開日：2026-09-14

PMID：42733217 | DOI：10.12659/ajcr.953836

PubMedの原文記録：<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/42733217/>

出版社の原著 : <https://doi.org/10.12659/ajcr.953836>

資料確認・作成日 : 2026-09-15

収録範囲 : 既存の日本語要約と編集上の臨床解説。原著全文の翻訳ではありません。確認範囲と未確認事項は上記の限界欄に記載しています。

免責事項 : AI作成・歯科医師による監修未実施。医療者の学習用資料であり、個別患者への診断・治療指示ではありません。臨床判断に用いる前に原著と最新の診療指針を確認してください。